

令和2年11月20日

文化審議会の答申（登録有形文化財（建造物）の登録）について

文化審議会（会長 佐藤 信）は、令和2年11月20日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに104件の建造物を登録するよう文部科学大臣に答申しました。

この結果、官報告示を経て、登録有形文化財（建造物）は、12,983件となる予定です。

1. 今回答申された登録有形文化財（建造物）の概要

	新規登録	累 計
登 録 数	104件 22都府県37市町(区)	12,983件 47都道府県979市町村(区)

○時 代 別 (件)

	江戸以前	明 治	大 正	昭 和	計
新規登録	25	30	11	38	104
累 計	2,305	4,112	2,631	3,935	12,983

○種 別 (件)

	産 業			交通	官公庁舎	学校	生活関連	文化福祉	住宅	宗教	治山治水	他	計
	1次	2次	3次										
新規	0	22	19	0	2	1	0	4	32	24	0	0	104
累計	118	1,375	1,640	512	231	393	336	416	5,783	1,884	210	85	12,983

(件)

	建 築 物	土木構造物	その他の工作物	計
新規登録	89	0	15	104
累 計	10,275	650	2,058	12,983

2. 今回の答申における主なもの

① 豪^{ごう}壮^{そう}な店舗と白漆喰^{ちようば}の帳場^{ちようば}を並べ建て、通りの景観をつくる

003 旧橋平酒造店（醸室）店舗ほか2件 宮城県大崎市 明治前期

市中心部にある酒造業などを営んだ商家。店舗は旧奥州街道沿いに東面して建つ。屋根の南面を入母屋造り、北面を切妻造りとした二階建て椽瓦形鉄板葺きで、正面に下屋を付し、成の^{せい}高い腕木で出桁造りの軒を豪壮に見せる。内部は一階に店舗、二階に床付きの座敷を配す。帳場は、置屋根形式の土蔵造り二階建てで、正面に店舗から続く下屋を付す。外壁は白漆喰塗りで、上部に黒漆喰塗りの鉢巻を廻す。二棟を並べて旧街道の景観をつくる。



② レーモンド設計のスパニッシュのクラブハウス

023 旧藤澤カントリー倶楽部クラブハウス（グリーンハウス）神奈川県藤沢市 昭和7年

藤沢市の中央部に位置。A・レーモンド設計。切妻造り三階建ての正面に大きな車寄^{くるまよせ}を張り出し、背面に二階建てをのばす。一階はホールの廻りに各室をならべ、二階は吹き抜けのラウンジである。車寄など開口部の半円アーチによる構成、青緑色のスパニッシュ瓦葺き屋根、アイアンワークの手摺など、全体をスパニッシュの手法でまとめる。現存する戦前のゴルフクラブハウスとして希少。



写真提供：神奈川県

③ 越前和紙製造の施設が一連で残る

047 岩野平三郎製紙所事務所ほか8件 福井県越前市 明治元年

越前和紙の産地、旧今立町にある製紙所。事務所は岡本川が流れる谷間の南北に長い敷地の北寄りに建つ。木造二階建て、切妻造り椽瓦葺きで正面に下屋を付す。外壁は真壁造で腰を下見板張りや縦板張りとする。隣接する主屋のほか、岡本川の上流となる南から北にむかってピーター一場、漉き場及び圧搾場、煮釜場、張り場及び乾燥場、コグラ、旧大工小屋、土蔵が残^{いまだて}り、和紙製造過程の一連の施設群をなす。



写真提供：越前市教育委員会

④ ^{よしむらじゅんぞう}吉村順三設計の軽井沢のアトリエ

060 ^{わきたかす}脇田和アトリエ山荘 長野県軽井沢町 昭和45年

昭和から平成にかけて活躍した洋画家・脇田和のアトリエ兼山荘。設計者の吉村順三は東京藝術大学の同僚。一階を鉄筋コンクリート造のピロティとし、主要な室は木造の二階に配する。くの字形の長大な平面を東西に分け、東棟はリビングや寝室等とし南に大きな開口を開けて庭を望む。西棟は矩形平面のアトリエと書斎。設計者・吉村順三の作風が表れるモダニズム住宅の佳品。



写真提供：一般財団法人脇田美術館

⑤ 井伊家の寄進による江戸後期の伽藍がよく残る

070 ^{くげいじ}弘誓寺本堂ほか5件 滋賀県東近江市 寛政2年（1790）

いわゆる七弘誓寺の一つで井伊家の庇護を受けた。本堂は桁行七間、梁間七間、入母屋造り本瓦葺き、三間向拝付きで南面する。龜腹上の礎石に柱を立て台輪を載せ、組物は木鼻付き平三斗で軒は二軒繁垂木。内部は、内陣を中心に前方を外陣、左右を脇陣とする浄土宗寺院本堂の特徴を示す。軒高の高い伸びやかな外観が印象的な本堂。庫裏や玄関など主要建物を一体として保存を図る。



写真提供：滋賀県文化スポーツ部

⑥ 中央ドームがアクセントとなる県庁舎

091 愛媛県庁本館 愛媛県松山市 昭和4年

^{きごしちろう}木子七郎設計、^{ないとうたちゅう}内藤多仲構造設計、安藤組施工の県庁舎。H形平面を持ち、鉄筋コンクリート造地下一階、地上四階建て。中央の車寄上部に三連の半円アーチを並べ、頂部にドームを冠した塔屋を載せて両翼を張り出す。外観は装飾を車寄開口と窓廻りの縁取りに留め、石積に平滑なモルタル仕上とするなど記念性と近代性を兼ね備えた意匠を持つ。内部は中央階段室や正庁等を華麗に飾る。



写真提供：北村徹

〈担当〉	文化庁文化財第二課	電話：03-5253-4111（代表）
課長	鍋島 豊	
課長補佐	田井 祐子	
登録部門	田中 禎彦、福田 剛史（内線 2797）	
審議会係	川口 雅之、川村 昌由（内線 3160）	